大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国際日本文化研究センター
International Research Center for Japanese Studies

**国際シンポジウム**
参加無料／事前申込制／日本語・英語同時通訳あり

# 国際的視野から眼差す日本メディアと大衆文化史
## ― 放送100周年に見出す知と課題 ―

2025.07.11
13:30–16:00

**基調講演**
**パネルディスカッション**

# アメリカ・イン・ジャパン 1825-2025

講演者：
　**吉見 俊哉**　東京大学 名誉教授、國學院大学 教授
パネリスト：
　**鄭 知喜**　ソウル大学校 助教
　**ヘンリー・ローレンス**　ボードウィン大学 教授
　**イフォ・スミッツ**　ライデン大学 教授

開催場所：日文研 講堂（オンライン配信あり）
開場時間：13:00　　受講料：無料
定員　　：会場 300名　（オンライン 500名）
申込締切：2025年6月11日(水) 正午　※ 日本時間

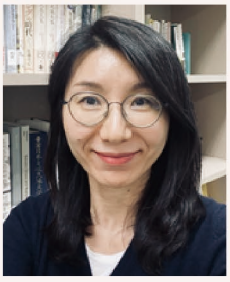
主催　国際日本文化研究センター（日文研）・アムステルダム大学
共催　「国際日本研究」コンソーシアム
後援　一般財団法人国際日本文化研究交流財団
科学研究費助成事業　若手研究　JP24K16165　「民衆の声に聴く占領史―日米マルチアーカイヴァル研究による「マイクの開放」再考―」（研究代表者：太田奈名子）

国際シンポジウム　国際的視野から眼差す日本メディアと大衆文化史
― 放送100周年に見出す知と課題 ―　基調講演 パネルディスカッション

# アメリカ・イン・ジャパン 1825-2025

●日本は今年2025年、「昭和100年」、「戦後80年」とともに、「放送100周年」を迎えた。本国際シンポジウム「国際的視野から眼差す日本メディアと大衆文化史―放送100周年に見出す知と課題―」は、NHKの前身組織である東京放送局がラジオ本放送を開始した1925年7月12日を記念し、2025年7月11～13日に開催される。日本と400年にわたる交流の歴史をもつオランダ出身・在住の10名を含め総勢20名の研究者が日文研に集い、過去一世紀のあいだに日本のメディアと大衆文化が国内外社会にもたらした影響を議論する。

●シンポジウムの幕開けとなる基調講演「アメリカ・イン・ジャパン 1825-2025」には、日本のカルチュラル・スタディーズで中心的な役割を果たしてきた吉見俊哉氏が、メインスピーカーとして登壇する。近著『アメリカ・イン・ジャパン―ハーバード講義録―』（岩波新書、2025年1月）をもとに、幕府が「異国船打払令」を出した1825年まで歴史を遡り、日米関係を根底から問いなおす。200年という長き道程に、放送100周年を位置付け、韓国・アメリカ・オランダから招聘した著名なパネリスト３名とともに、アメリカとは切っても切り離せない日本メディアと大衆文化の真髄に迫る。



## 登壇者紹介（登壇順、左から）

●**吉見俊哉 Shunya YOSHIMI** 社会学者。1957年、東京生まれ。國學院大学観光まちづくり学部教授、東京大学名誉教授。上演論的アプローチから都市論、メディア論を展開、日本のカルチュラル・スタディーズで中心的な役割を果たしてきた。長く東京大学で教え、大学院情報学環長、大学総合研究センター長、教育企画室長、副学長などを歴任。東京大学新聞社理事長、東京大学出版会理事長、日本マス・コミュニケーション学会会長、デジタルアーカイブ学会会長、東京文化資源会議会長なども歴任する。主な著書に『都市のドラマトゥルギー』（河出文庫）『親米と反米』『大学とは何か』『トランプのアメリカに住む』（岩波新書）『アメリカの越え方』（弘文堂）『東京裏返し』（集英社新書）『敗者としての東京』（筑摩書房）など多数。

●**鄭 知喜 Ji Hee JUNG** ソウル大学校日本研究所助教。ソウル大学校で学士号、カリフォルニア大学サンディエゴ校で歴史学修士・博士号取得。専門は日本近現代史。大衆民主主義がメディアを通して近代世界にもたらした可能性と課題を研究。なかでも、戦前から戦後にかけての日本におけるラジオ放送と帝国主義的な戦後主体の形成、およびメディアと戦後民主主義の関係を探究している。代表的な論文に「「聞く主体」の形成と大衆の国民化―戦時日本のラジオ聴取指導―」『響き合う東アジア史』（東京大学出版会）。他、Modern Asian Studies、Asian Studies Reviewなどに掲載論文多数。

●**ヘンリー・ローレンス Henry LAURENCE** ボードウィン大学行政学部教授・学部長。オックスフォード大学オリオル・カレッジで学士号、ハーバード大学で政治学博士号を取得。専門はメディアと政治経済学。オックスフォード大学ロイタージャーナリズム研究所、日産日本問題研究所、東京大学社会科学研究所、ハーバード大学日米関係プログラム研究員、ボードウィン大学アジア研究プログラム長を歴任。主な著書に『The Politics of Public Broadcasting in Britain and Japan: the BBC and NHK Compared（英国と日本の公共放送の政治学―BBCとNHKの比較研究―）』（Routledge）。

●**イフォ・スミッツ Ivo SMITS** ライデン大学中東・アジア地域研究所教授。オランダのライデン大学文学部日本語日本文化学科を卒業後、東京大学大学院留学を経て、ライデン大学で文学部博士号取得。専門は日本中古・中世文学。早稲田大学客員研究員、ケンブリッジ大学研究生、イエール大学客員助教授、ライデン大学中東・アジア地域研究所所長を経て現職。日本の古典文化、文化が生んだ文学、それらが映画など現代メディアにより幾度となく創作されつづけ、様々な表象を生むプロセスに高い関心をもつ。主な著書に『Reading East Asian Writing（東アジア文学を読む）』(Routledge)。

## プログラム

司会 **劉 建輝** 日文研 教授

**13:30 開催挨拶 / 趣旨説明**
**井上 章一** 日文研 所長 / **太田 奈名子** 日文研 准教授
**キャロリン・バードソール** アムステルダム大学 准教授

**13:45 基調講演**
**吉見 俊哉** 東京大学 名誉教授、國學院大学 教授

**15:00 休憩**

**15:15 パネル・ディスカッション**
**吉見 俊哉** 東京大学 名誉教授、國學院大学 教授
**鄭 知喜** ソウル大学校 助教
**ヘンリー・ローレンス** ボードウィン大学 教授
**イフォ・スミッツ** ライデン大学 教授

**16:00 終了**

## ●申込方法

下のリンクか、右のQRコードから
申込フォームにアクセスしてください。
https://forms.office.com/r/xe54NWjVyE
申込締切　2025年6月11日 (水) 正午　※ 日本時間

## ●お問合せ

国際日本文化研究センター 研究協力課国際研究推進係
〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2
TEL：075 (335) 2041
E-mail：symposium@nichibun.ac.jp

## ●シンポジウム公式ウェブサイト

https://www.nichibun.ac.jp/ja/events/other_events/2025/07/11/

アクセス

桂坂中央行きのバスにて「桂坂小学校前」または「花の舞公園前」下車

交通手段

●阪急桂駅西口：京都市バス 西５・西６ (約30分)、京阪京都交通バス 20・20B (約20分)
●阪急桂駅東口：京阪京都交通バス 26 (約20分)
●阪急洛西口駅：ヤサカバス 1・6 (約20分)
●JR桂川駅：ヤサカバス 1・6 (約30分)
●JR京都駅：京阪京都交通バス 21・21A・26 (約45分)

※お車およびバイクでのご来場は、お断りしております。